

作って食べて交流

～JAくらしの活動 野菜いっぱいプロジェクト～

黒石基幹支店では女性部員を対象に「JAくらしの活動」の一環として「野菜いっぱいプロジェクト」を展開する。栽培しやすい野菜の品種や珍しい品種などみんなで栽培し、出来た野菜は近隣住民みんなで食べ、コミュニケーションを図るとともに、JAや農業、健康への関心を深めてもらう。プロジェクトは2回目。去年は20人、今年は48人が野菜作りに挑戦する。

4月24日、中央りんごセンターで野菜栽培講習会を開き、女性部員47人が参加した。渋谷種苗店代表取締役社長の渋谷幸雄さんを講師に迎え、栽培しやすい品種や珍しい品種の紹介と栽培方法などを教えた。昨年のアンケートで失敗した品種の注意点なども説明した。

参加者は「昨年うまくできなかった品種にもう一度挑戦。注意点を参考に栽培したい」「珍しい品種に挑戦できるのがいい。将来直売所にも出してみたい」と話した。



栽培方法を説明する渋谷社長

力合わせ高原野菜生産に取り組もう

～南八甲田高原野菜生産組合総会～

南八甲田高原野菜生産組合(谷川強組合長)は4月24日、平川市の葛川克雪管理センターで、第41回通常総会を開き、組合員や関係者58人が出席した。

総会では、生産工程管理記帳運動の継続と栽培講習会での安定多収技術の向上など、良質の高原野菜生産地として推進することを承認した。また役員改選も行われ、組合長に比内保幸さんが選任された。

出席者は、目標販売額8億円以上の達成や経営の安定を目指すなどのスローガンを確認。組合員一丸となり高原野菜生産に取り組むことを誓った。

5月10日には同組合の比内組合長ら役員がJA本店を訪問し、工藤友良組合長にあいさつと販売協力をお願いをした。



スローガンを確認する組合員



JA本店を訪れた南八甲田高原野菜生産組合の役員一同(左側)

おいしさ詰まった冬越しりんご

～「かまくらりんご」掘り起し～

直売所「あっぷるはうす・おふくろの店」の会員で構成する「かまくらりんごの会」は4月17日、沖揚平地区で雪の中に埋め冬越しさせたりんごの掘り起し作業を行った。全会員11人が参加し、2畝ほどある雪の中から重機とシャベルを使いりんご約60箱(20kg/箱)を掘り起こした。今年は雪融けが早いため、昨年より1週間ほど早い掘り起こしとなった。

工藤朋恵会長は「水分を多く含み、ジューシーで食感も良くおいしい「かまくらりんご」ができた。多くの人に食べてもらいたい」と笑顔を見せた。

21日に行った「かまくらりんご」の即売会では、昼頃には完売となった。購入者は「今回初めて買うことができうれしい。おいしいりんごを職場の人と分け合って食べたい」と話した。



掘り起こした「かまくらりんご」と笑顔の会員